

参加者：川村先生、佐藤、高柳、渡辺、吉岡、高橋、山城

ADHD（注意欠陥・多動性障害）は不注意（集中力がない）多動性（じっとしてられない）衝動性（考えずに行動してしまう）の3つの症状がみられる発達障害である。

年齢や発達に不釣り合いな行動が仕事や学業、日常のコミュニケーションに支障をきたすことがあり、人口調査によると子どもの20人に1人、成人の40人に1人にADHDが生じることが示されている。近年では、子どもだけではなく大人になってからADHDと診断される人も多く、注目を浴びている。

#### 【効能・効果】

小児期における注意欠陥／多動性障害（AD/HD）

#### 【用法用量】

通常、体重50kg未満の小児ではグアンファシンとして1日1mg、体重50kg以上の小児ではグアンファシンとして1日2mgより投与を開始し、1週間以上の間隔をあけて1mgずつ、下表の維持用量まで増量する。なお、症状により適宜増減するが下表の最高用量を超えないこととし、いずれも1日1回経口服用すること。

#### 《体重別1日用量》

- 17kg以上25kg未満：開始 1mg、維持 1mg、最高 2mg
- 25kg以上34kg未満：開始 1mg、維持 2mg、最高 3mg
- 34kg以上38kg未満：開始 1mg、維持 2mg、最高 4mg
- 38kg以上42kg未満：開始 1mg、維持 3mg、最高 4mg
- 42kg以上50kg未満：開始 1mg、維持 3mg、最高 5mg
- 50kg以上63kg未満：開始 2mg、維持 4mg、最高 6mg
- 63kg以上75kg未満：開始 2mg、維持 5mg、最高 6mg
- 75kg以上：開始 2mg、維持 6mg、最高 6mg

#### 【特徴】

- $\alpha$ 2刺激による交感神経抑制作用で低血圧、徐脈がみられることがある。
- 徐放錠のため粉砕不可。
- 不注意、多動性、衝動性の三大症状すべてに効果がある。
- 中枢神経刺激薬ではないため依存性のリスクがない。
- 成人のADHDに適応なし。

#### 【副作用】

承認時における安全性評価対象症例254例中、副作用（臨床検査値異常変動を含む）は190例（74.8%）に認められた。主なものは、傾眠146例（57.5%）、血圧低下39例（15.4%）、頭痛31例（12.2%）であった。

### 【考察】

インチュニブは従来使用されていたADHDの治療薬と異なる作用機序を持つため、今までのADHD治療薬では十分な効果が得られなかった患者さまにも効く可能性がある。また代表的なADHD治療薬である「中枢神経刺激薬」で問題となる耐性・依存性・乱用といった副作用も生じないため、安全性にも優れている。コンサータのように医師の登録が必要ないので多くの患者さまが早く薬物治療を始めることができるようになる。他のADHD治療薬にみられる体重減少の副作用がないので特に小児に関しては成長に悪影響が及ばない本剤が第一選択薬になるだろう。ただし、抗生物質のクラリスやクラリシッド、グレープフルーツジュースなどと一緒に摂取すると血中濃度上昇の恐れがある。また、もともと高血圧治療薬として開発された薬であるため、徐脈、ふらつき、動悸など、心血管系の副作用が表れることがあるといったことから、薬剤師が投薬する際の患者さまとの対話がとても大切で併用薬や持病などに注意しなくてはならない。

### 【質疑応答】

Q: コンサータとストラテラ併用してよいの？

→ 海外では中枢刺激薬（コンサータ）の補助療法として使用されている。

Q: 1日1回の服用はいつでもよいの？

→ いつ服用してもよい。